

吾妻山火山防災マップ

2019年度改定版
福島市



噴火したときに予想される火山災害



吾妻山の噴火警戒レベル

火山災害から身を守るために

- 噴火警戒レベルとは、噴火時に危険な範囲が必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることを留意」）。
- 吾妻山の噴火警戒レベルは、噴火警戒等でお伝えします。

■吾妻山 噴火警戒レベルと規制範囲

この図は、図中「噴火警戒レベル」を明示して掲載しています。
図中の特定地域とは、居住地域より吾妻山の想定火口に近い所に位置する集落施設が含まれる地域を指し、居住地域より早期に避難等の対応が必要になることがあります。
※融雪型火山泥流は積雪期のみ想定される。
※ここでいう火口とは、「大穴火口及び旧火口周辺（大穴火口と燕沢火口）をいう。
※吾妻小富士、五色沼など、想定火口以外で噴火が発生した場合は、直ちに新たな噴火警戒レベルを火山防災協議会で設定する。
■各レベルにおける具体的な規制範囲等については各市町村の地域防災計画等で定められています。
■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧いただけます。
https://www.jma.go.jp/jma/index.html

気象庁 Japan Meteorological Agency

火山現象の主な用語

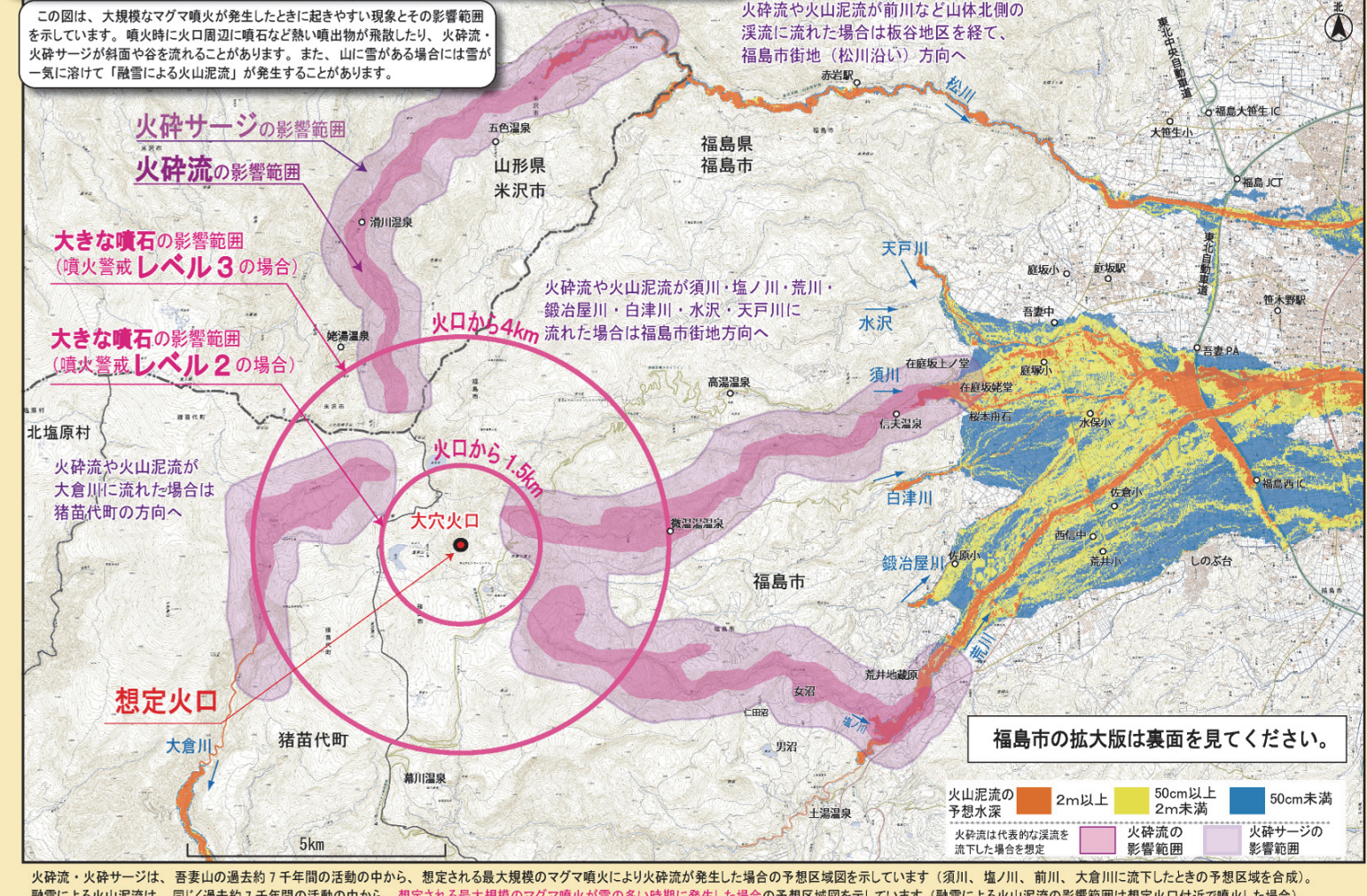
- 火山ガス
地下深部のマグマに溶けているガス成分がマグマから分離して地上に噴出したものです。噴火していないときでも火山ガスの放出が見られます。火山ガスの成分は、水蒸気に加え、二酸化硫黄（SO₂）、硫化水素（H₂S）、二酸化炭素（CO₂）などを含みます。特に、ぜん息の持病がある方、心臓が弱い方などは発作を起こす危険な状態になることもあり、注意が必要です。
- 火山でガス臭を感じたら
1. ガスが溜まりやすい場所や窪地をさけて、風上や高台に向かって離れてください。
2. 火山ガス成分は水に溶けやすいため、ハンカチやタオルを濡らして口や鼻を覆うようにしてください。
- 水蒸気噴火
地下深部で地下水がマグマ等の熱で温められて水蒸気となり一気に爆発する現象です。爆発に伴って火口から火山灰や噴石（火山弾）などが放出されます。
- マグマ水蒸気噴火
地下水などが地下深部から上昇してきたマグマと直接接触して起きる現象です。一般に、水蒸気噴火よりも大きく激しい爆発が起きやすくなります。
- 火山灰（火山礫・火山岩塊）
火山噴火により火口から噴き上げられるマグマや岩石の破片、鉱物などからなります。大きな噴火では火口から100km以上遠方まで到達します。噴火口の近くでは厚く積もり、森林や農地、建物を覆ってしまいます。火山灰よりも大きいサイズの放出物で、直径2～64mmのものを火山礫、64mm以上を火山岩塊と呼びます。
- 火山灰が降ってきたら
1. 外出する場合は、マスクやゴーグル、濡らしたタオルなどで喉や目を守りましょう。ぜん息や気管炎の症状がある方は特に注意が必要です。
2. 建物の窓やドアをしっかりとめて室内に火山灰が入らないようにしましょう。
3. 火山灰が積もると滑りやすくなるため、車のブレーキが利きにくくなります。スピードを出さずに走るようにしましょう。
4. 車のガラスが火山灰で削つくの防ぐため、多めの水やウォッシャー液で洗い流しましょう。
- 噴石や火山弾
火口から弾道軌道を描いて落下する噴石（岩塊や火山弾）は数km程度先まで到達します（このマップでは他火山事例を参考に4km程度と想定しました）。吾妻山の1893（明治26）年の噴火では、火口付近を調査していた技術者2名が噴石にあたり死亡しました。
- 土石流（降灰後の土石流）
降雨時に雨水や渓流の流水が土砂や流木と混じって流れ下る現象。噴火時には、斜面に積もった火山灰が雨水の地面への浸透を妨げるため少量の降雨でも土石流が発生しやすくなります。
- 火山泥流（土石流と併せて「ラハール」と呼ぶこともあります）
火山灰などの細かい土砂や流木を取り込んだ泥の流れです。泥流に取り込んだ土砂が水と一体になって流れるため、通常の水よりも密度が大きくなり破壊力も強くなります。吾妻山のように積雪の多い火山で冬に噴火が起きると、噴出物の熱で火口周辺の雪が急速に融けて火山泥流が発生しやすくなります。融雪による火山泥流は、積雪の量や噴出物の熱量によって発生する量が大きく変化します。
- 火砕流・火砕サージ
火口から高温の火山灰や火山礫・岩塊と火山ガスが混じって、斜面や渓流を高速で流れ下る現象です。火砕流のうち、火山ガス成分が多く、流れながら周囲に拡がりやすい部分を火砕サージと呼びます。破壊力が大きく、火砕流・火砕サージが流れる範囲は建物などが破壊されます。雲山岳（菅野岳）の1991（平成3）年噴火では、火砕流によって43名以上の方が亡くなりました。

吾妻山火山ハザードマップ

1. 噴火時の噴石・火山灰の飛散範囲、降灰後の土石流ハザードマップ



2. 火砕流・火砕サージ、融雪による火山泥流ハザードマップ



気象庁が作成した「吾妻山の噴火警戒レベル」リーフレットを掲載しています。

気象庁が作成した「吾妻山の噴火警戒レベル」リーフレットを掲載しています。